校報 水緒
「知徳の方向　あやまらず　進め」
第 １３２６ 号
（令和２年度 第９号）
洋野町立種市小学校
令和２年７月１日
児童数 ２２７名

旧暦の節句が過ぎました。私の家の方では、節句に「とろろ」を食べます。それぞれの土地や家に伝わる風習を大事にして伝えていきたいと思います。

先生方は後ろをついてきてください！わたしたちが案内します!!

“自分たちで行く”生活科探検

６月１９日（金）は、２年生の「どきどき　わくわく　まちたんけん」でした。おうちの方のボランティアもお願いして５つの班に分かれての探検でした。コロナの影響で、お店に入ってのインタビューは我慢し、どんな建物があるかを見てくる探検でした。Ｃ班への同行取材を許されました。

横断歩道を渡って向こう側に行くグループがあります。**「え、わたしたちは横断しなくていいの？」**と不安になります。

「次の横断歩道を渡ればいいんじゃない。」「いや、もっとまっすぐじゃない？」黙ってみていることにしました。子ども達は集まって何やら話し合いを始めました。**「ん－ん、地図がさかさまではないかな。」**と思って見ているとどうやら気が付いたようです。

先頭は子ども、後ろに先生（ボランティアのお母さん）。いつもの見学学習とは逆です。

はじめは、「手をあげて渡るんだよ！」と友達に教えられていた子もちゃんと「手をあげて右見て左見て」を実行しています。

ボランティアで参加されたお母さんは**「これ全部ビデオに撮っておきたいくらいです。」**とおっしゃいました。本当にそう思います。**子ども達が今まさに学んでいる“ドキュメンタリー”**です。このような学習の経験を積み重ねていく子ども達は、次にはどんな学習を行うのでしょう。さらに、３年生では、・・・・、６年生では、と楽しみになります。

広がってほしいこと

「種市小学校を　ますますよい学校にしよう」　その2

“さきに”あいさつ

前回お知らせしましたように、みんなに広がってほしいことが見つかっています。例えば、「あいさつ」です。校門にたまに立っていますが、子ども達の方からあいさつされることが多くなりました。

種小の「まなびフェスト」のあいさつの項目には「“さきに”あいさつ」という目標があります。なかなか子どもの方からのあいさつは聞かれなかった春先に比べて、子どもの方からあいさつをしてくれることが増えてきたのです。あいさつしようと息を吸って声を出そうとした瞬間、子ども達に先にあいさつされてしまいました。**「おや、負けてしまった！」**また次の子がやってきました。あいさつしようと思うとまた、子どもの方から元気なあいさつが聞こえます。遠くの方からも聞こえるようにもなりました。**「また負けた！」**“勝ち負け”にたとえるのではないのですが、うれしい「負け」です。初めに先に挨拶してくれたのは**２年**の**勝田翔也くん**と**５年**の**袖山怜大くん**だったでしょうか。しばらく前のことです。それから、どんどん先に挨拶してくれる子が増え、うれしい「負け」が続いています。

すきま読書

１学期はたくさんの健康診断がありました。順番を待つ間、静かにしていなければなりません。しかも結構な時間がかかります。マリンホールでまっている子達が、本を持ってきて読んでいました。同じ待つにしてもなんと“かしこい”ことでしょう。

言葉づかい
「理科の実験で･･･するのです。」

ここにガーゼが詰まっています。

４年生の子が、ペットボトルを持って保健室に向かっています。**「どうしましたか。」**と尋ねると**「３時間目の理科の時間にこれに砂や校庭に土を入れてどちらが速く水を通るか調べるのです。」**という返事。**「ここの間にガーゼを入れるので、保健室にもらいに来ました。」**わかりやすいうえに、**大変丁寧な言葉づかい**でした。最近、大人に対してもことばを使い分けないことが増えています。われわれ大人も「あまり細かいことを言うよりも・・・。」とおざなりにしがちです。

別れ際には、**「あ、そうだった。校長先生おはようございます。」**とも。いろいろ会話した後ですが、あいさつをしていなかったと思い出したのでしょう。これもまた“よし”です。先生やおうちの方から「人に会ったらあいさつするもの」と教えられています。それを守ろうという、なんとも**“めごい”**行動でした。

みんなのために役立とうとすること（外遊びサポーター：体育委員会）

体育委員会が「外遊びサポーター」という取り組みをしていました。委員会活動は、「自分が好きなことをする」というのではなく、全校の友達に広げるための活動をします。今回は体育委員会が、みんなに丈夫な体をつくってほしくて、一緒に遊んで、外遊びや上手な遊び方を体験してもらったのでした。

子ども達の関心は「自分だけの楽しさ」から「自分や友達の楽しさ」に広がり、さらに、楽しさだけでなく「みんなの役に立つこと」へと広がっていきます。これが、少しずつ『おとな』になっていくということではないでしょうか。